

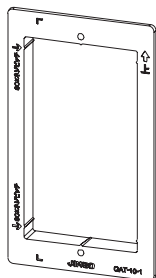
QAT-10 納めしろ付継枠(以下、継枠)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本製品の施工は、左官工事にて壁材として壁に固定する場合と、電気工事にて取付補助具として用いる場合があります。どちらの場合も配線器具の電線脱着作業は電気設備技術基準や内線規程に従い電気工事業者(有資格者)が安全かつ確実にこなしてください。

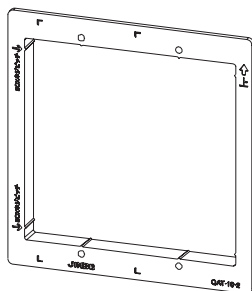
また、ご使用になる前に必ずこの施工説明書をご参照いただき、正しくご使用ください。

本紙の掲載内容は、artific series(アーティフィックシリーズ)を基に説明しています。

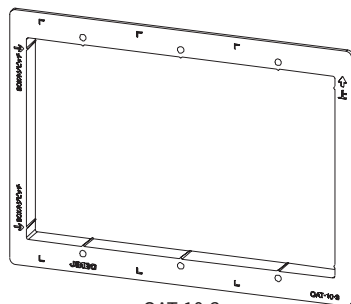
ご購入いただいたプレートが別シリーズの場合においても、施工上の取り扱いや注意事項は共通です。



QAT-10-1
(1連用)



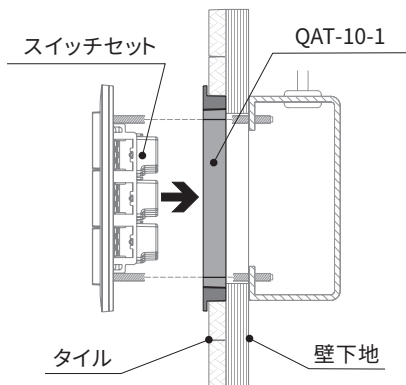
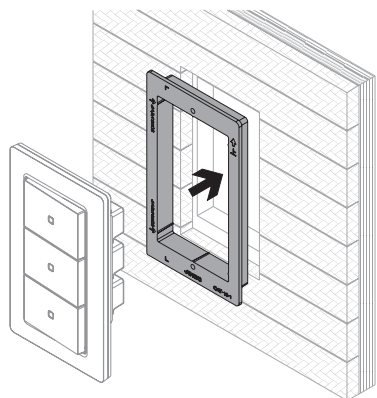
QAT-10-2
(2連用)



QAT-10-3
(3連用)

製品概要

- 本製品は配線器具(スイッチやコンセント)を直接取り付けるのが困難なタイルや凹凸のある場所に当社の配線器具を確実に取り付けるための屋内専用の継枠です。
- 壁表面の強度や凹凸の影響を受けずに配線器具を壁下地に安定して取り付けることができるため、取付時のネジ締めによるタイルの割れや壁面凹凸による配線器具の傾きを防止することができます。
- 鏝(つば)状に設けた納めしろにより、本製品の外形に対してタイル等の切り欠き寸法を一回り小さくできるため、コバ面を製品外形で隠蔽することができます。

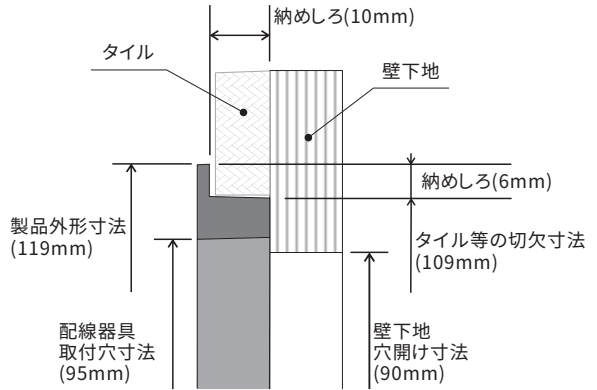


施工前確認事項

<ご注意>

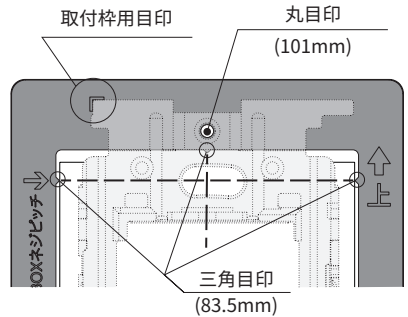
本製品は施工の仕上がりをよくするため各加工寸法の余裕を少なくしていますので、施工時は下記の点にご注意ください。

- 埋込ボックスの傾きに対し配線器具での補正可能範囲が小さいため、ボックス取付時の水平出しを確実に実施してください。
- 壁下地への穴開けは、配線器具取付穴より小さく加工してください。穴が大きい場合、壁下地との接触面積が不足し、配線器具取付時に継柱ごと壁にめり込む恐れがあります。



<各目印について>

- 三角目印(突起)**
配線器具を取付けるボックスネジピッチ(83.5mm)位置を示す、継柱を埋込ボックスの中心に取り付けるための目印です。三角目印の交点と埋込ボックスのネジ穴の中心を合わせて使用します。
- 取付枠用目印(凹文字)**
推奨取付枠使用時に取付枠左端の位置を示す上下1組の目印です。上部用: ㄱ、下部用: ㄴ があります。(推奨以外の取付枠では位置が異なる場合があります。)
- 丸目印(貫通穴)**
推奨取付枠使用時にプレート用101mmピッチ位置を示す目印です。取付枠用目印が利用できない場合にも利用できます。(推奨以外の取付枠では位置が異なる場合があります。)



製品情報一覧

製品番号	QAT-10-1	QAT-10-2	QAT-10-3
適用プレート	連用プレート(1連)	連用プレート(2連)	連用プレート(3連)
推奨取付枠	BS-C、BS-K、NWS-C、NS-C (当社製調光器およびコンセント等の枠一体品も含む)		
推奨はさみ金具※ (JIS埋込ボックスも対応)	8651	8652CT	8653CT
製品外形寸法(mm)	幅 69×高さ 119×厚み 12	幅 115×高さ 119×厚み 12	幅 150.5×高さ 119×厚み 12
タイル等の切欠寸法(mm)	幅 59×高さ 109	幅 105×高さ 109	幅 151×高さ 109
配線器具取付穴寸法(mm)	幅 54×高さ 95	幅 100×高さ 95	幅 146×高さ 95
壁下地穴開け寸法(mm)	幅 53×高さ 90	幅 99×高さ 90	幅 145×高さ 90
納めしろ(mm)	製品外形より全周 6 / 壁下地より高さ 10		
推奨タイル厚	8mm 以上(タイル厚が薄い場合は壁面とスイッチ取付面の隙間が大きくなります)		

※次のはさみ金具は使用できません。8661、BH-6、BH-12、BH-18、BS-P-1、BS-P-2、BS-P-3

他社製品の使用可否は各メーカーにご確認ください

施工手順

本製品の施工は、左官工事にて壁材に固定する場合と、電気工事にて取付補助具として用いる場合がありますが、配線作業の有無を除いて本製品の取付作業での違いはありません。

1. 位置合わせ

埋込ボックスの場合は埋込ボックスの中心に、はさみ金具の場合は壁の開口穴の中心に合わせて本製品を配置します。

埋込ボックスの場合

三角目印を目安にして埋込ボックスの中心に配置します。

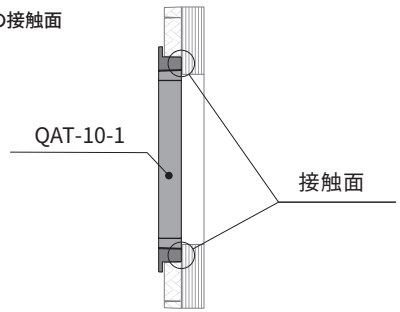
はさみ金具の場合

位置決めの目印は無いため、本製品と壁下地の接触面の全てが確実に載るよう上下左右のバランスを見て配置します。

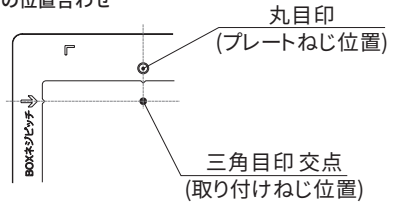
三角目印

内側にある三角の目印は対面の目印と対になっており、各目印を結ぶ仮想線の交点を埋込ボックスのネジ穴に合わせて埋込ボックスの中心に配置できます。

壁下地との接触面



三角目印での位置合わせ



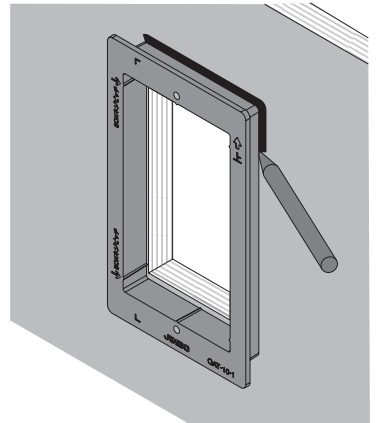
2. 墨出し

本製品の位置合わせが完了したら、タイル等を切り欠く際の基準線を壁下地との接触面に沿って引きます。

<埋込ボックスの水平が出ていない場合>

既設の埋込ボックスが傾いている場合は、ボックスの中心位置を確認し、本製品を水平になるように微調整してから墨出しをおこなってください。

墨出し作業

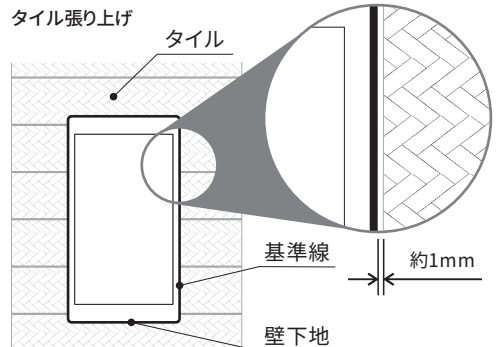


3. 左官工事・タイル工事

墨出した基準線を目安に施工を行います。

本製品との干渉を回避するため、タイル張り上げは基準線が隠れない様に1mmほど離し、使用するタイルの取扱説明書に従い施工してください。

タイル張り上げ



施工手順

4. 継ぎの取り付け

左官工事やタイル工事で本製品を壁の一部として取り付ける場合は、タイル等の施工説明書に従い所定の接着剤等で固定してください。(固定方法に指定がない場合は、製品裏面の両面テープで貼り付け)

配線器具と共締めで使用する場合、インパクトレンチなどで必要以上に締め付けると、本製品が割れたり配線器具が沈み込み、使用に不具合が生じる恐れがあります。(推奨締めトルク:0.4[N・m]以下)

5. 配線器具の取付け

配線器具を取り付ける際は、施工後の見栄えが良くなるように、取付枠を本製品の中心に取り付けてください。

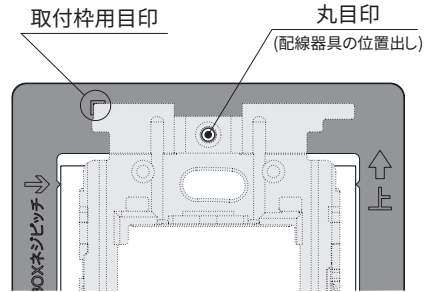
推奨取付枠の場合は、右図のように「丸目印」か「取付枠用目印」を使用することで取付枠を本製品の中心に配置できます。

丸目印

取付枠のプレート用ねじ穴(101mmピッチ)と合わせて使用します。

取付枠用目印

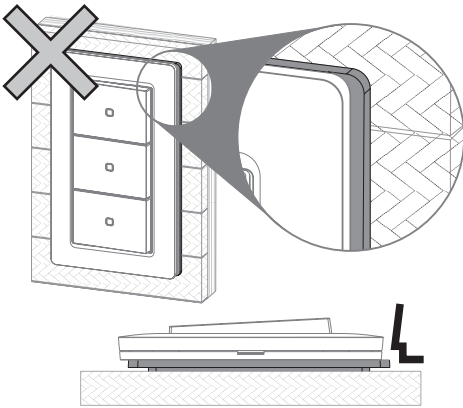
取付枠外形の左端を上下の各目印に合わせて使用します。



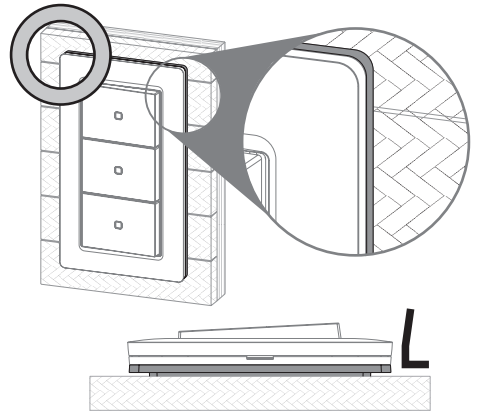
各目印の使い方

<位置合わせが不十分だった場合>

継ぎがプレートから不自然に継ぎがはみ出した状態になります。



プレート外形より継ぎがはみ出しています。



artific series → 継ぎはプレート外形と揃います。
その他のシリーズ → 継ぎはプレートの内側に隠れます。

<ご注意>

- 本製品の使用により配線器具の取付面が壁下地より12mm手前になるため、壁下地の厚みによっては埋込ボックスの付属ネジでは長さが不足する恐れがあります。
- 電気工事を回避するために配線器具を結線したままで取り付ける場合、電線の曲げ伸ばしによる断線に注意してください。(一般的な住宅配線はVVFやIVなどの銅単線が使われています)
- 電線の接続、および取り外しには電気工事士の免許が必要です。